

# 梅原の子

Umehara Elementary School

梅原小学校 学校だより

令和5年 7月号

## 守り抜きたい 『絆』『団結』『子どもの声』

2020年1月、日本国内で初めての新型コロナウイルス感染症の感染が確認されてから、3年と半年余り。その間、マスクが店頭から消え、オリンピックは延期になり、3密を避ける新しい生活様式が日常に定着しました。この期間を礎にして、現在はウイルスとの共生をする生活に変わってきています。社会にも、地域にも、当然学校にも、さまざまな活動が始まり、みんなが待っていた光景が戻りつつあります。学校では、読書サークルの皆さんによる読み聞かせ、5年生の宿泊学習（森と川の学校）、マスクが外れた子どもの思いつきの笑顔など、うれしい場面が増えています。

地域では、この夏、公民館を中心に多くの活動が催されています。今回は、公民館長の矢崎さんにお話を伺いました。館長さんは、毎日、体育館前で児童の登下校の見守りをしてくださっているので、児童のみなさんにもなじみ深い方です。

- ・7月23日(日) 7:00～ 梅原地区ラジオ体操
- ・7月28日(金) 9:30～  
盆踊り大会練習  
育成会の活動
- ・8月12日(土) 梅原盆踊り大会

公民館は、梅原の人と人をつなぐ場所でありたい、という願いで取り組み、今年で7年目を迎えることになりました。梅原公民館には、多くの方がおいでになります。いろんな団体さんが集まる場所でもあります。人が出会えば、活動が生まれ、笑顔ができます。その「絆」を大切にしたいと考え、時間の許す限り公民館を開放しています。

公民館の活動では、梅原地域の方に限らず、他の地区からも足を運んでくださる利用者さんがいます。相談事や寄り合いなどで、途切れることなくいろいろな人が活用して下さいます。気楽に集える公民館として、梅原地域に存在できるのは、皆さんのお陰だと、ただただ感謝です。

私が生まれて70年ほどのうち、この梅原を離れたのは学生時代の4年間だけで、あとはずっとこの地で暮らしてきました。これから先も離れることはありません。私には、それが本当にうれしいことです。私の知っている梅原は、人が温かくて、自然が豊かで、大きな災害は少なく、住むなら『梅原』だと胸を張れるところです。その中心には、昔も今も『子どもさん』がいます。子どもたちの声が響けば、梅原の人は元気になって、あれもやってあげたい、これも…、と「団結」ができ、活気づきます。子どもは、まさにふるさとの元気の源です。

コロナ対策で途絶えていた活動も、やっと再会できる時期になりました。この夏は、子どもの声が響き、地域の人々の笑顔がはじける梅原を取り戻そうと、計画をしています。ぜひ、たくさん子どもさんに来てほしい。待っています。



館長さんのお話を聞きながら、明るい未来を実現するために必要なのは、今を生きている一人一人が希望をもっていることだと感じました。今を生きている大人が、明るい未来を信じて、企画したり、相談したり、団結して実行したりすることで、未来が創られていく。その中心に、『子ども』を据えてくださっていることは、本当にありがたいことです。ここに梅原の子の幸せがあるのだと感じます。

### お知らせ

前号で紹介したふるさと活性化協議会のみなさまが、8月の環境整備を計画してくださっています。そのため、予定していた8月20日のPTA親子清掃は、取りやめとします。現在、別の活動を考えています。